

目的・高齢者の健康は本人、家族はもちろんのこと、社会的にも重要な関心事の一つである。近年の高齢者の生活スタイルには様々な形態があるが、わが国では、施設生活者を除けば、独居形態、老夫婦のみの一世代生活形態、複合家族すなわち三世代生活形態がほとんどを占めている。その生活形態の相違と高齢者の健康の関係を調査し、第45回本大会において、栄養素摂取量は一世代生活形態の男女が高いこと、いずれのグループもカルシウムと鉄の不足があること、また、自分が健康で活動的と考えているのは一世代生活形態の男性と、三世代生活形態の女性であったことを報告した。今回引き続き、健康状況について6項目に分けてまとめたので報告する。

方法・対象者は、岡崎市在住の70歳以上の高齢者で、住民台帳より独居生活形態（L A群）、老夫婦のみの一世代生活形態（L S群）、三世代生活形態（L F群）別に抽出し手紙で調査の協力を依頼した。協力者は男性43名、女性46名の計89名で、応答率は63.6%、平均年齢は男性78歳、女性77歳である。調査は面接聞き取り法を用いた。

結果・日常生活に対する不都合性は「難しいが助けはなくてよい」の範囲の回答が大多数であった。家事労働時間はL A群の男性80分、女性152分、L S群の男性90分、女性140分、L F群の男性116分、女性173分であった。散歩時間は1日に、男女それぞれL A群26分、24分、L S群65分、32分、L F群39分、26分であった。その他、運動量、社会活動、疾病、常用薬、健康補助用具などについても分析したが、項目別に集計した結果を点数化した総合評価ではL A群が劣っていた。